

フィリピンとの掛け橋

第12号 日本聖公会九州教区宣教局フィリピン協働委員会発行

2007年11月22日

ネッド司祭滞在特集



10月4日(木) 広島の人ホームで

ネッド司祭、20日間滞在

9月27日(木)から、10月16日(火)、フィリピン中央教区のネッド・マパンドル司祭が来日し、東京、神戸、福山、広島、そして九州教区の各地に滞在し、東京聖三一教会、戸畑聖アンデレ教会、巖原聖ヨハネ教会で主日礼拝の説教を担当。また、途中、久留米天使幼稚園では、園児たちにお話をした。そして、宗像、北九州、久留米、福岡、巖原など各地を訪問し、交流を深めることができた。

ネッド司祭の日程

9月27日(木)夕方、成田空港に到着。東京聖三一教会加藤兄らが出迎え。東京教区の宿舎に宿泊。
28日(金)東京の入国管理局に出向く。
29日(土)東京都内を見学後、加藤兄宅宿泊。
30日(日)東京聖三一教会で主日礼拝説教。
10月1日(月)都内を訪問。
2日(火)3泊した加藤家を出て、新幹線で神戸へ移動。夜、神戸教区の聖職たちと懇談。神戸教区宿舎に宿泊。
3日(水)六甲山で昼食。松蔭女子学院訪問。福山に移動。市内見学の後、福山諸聖徒教会訪問。そして小林史明司祭の実家に宿泊。

4日(木)ホロコースト記念館見学後、広島に移動。6年前に会っていた、山岡ミチコ姉と再会訪問(写真)。広島復活教会を訪問。

5日(金)広島から福岡に移動。福岡空港内の入国管理局へ、滞在ビザ延長の申請に行く。教区事務所、宗像聖パウロ教会、小倉インマヌエル教会訪問後、佐々木宅でのバーベキューに参加。

6日(土)直方セントポール幼稚園運動会見学。北九州市内を見学後、戸畑聖アンデレ教会宿泊。

7日(日)戸畑聖アンデレ教会で礼拝説教。午後、八幡聖オーガスチン教会訪問。

8日(月)北九州から久留米に移動。久留米ベテル教会訪問。柴本登志男兄宅で歓迎会。

9日(火)長崎へ日帰り旅行後、ホームレス支援活動に参加。

10日(水)久留米天使幼稚園で園児にお話。午後、柳川の川下り。吉野ヶ里見学。福岡でBSAと夕食会。

11日(木)入管でビザ延長取得。福岡聖パウロ教会で歓迎会。

12日(金)巖原へ移動し、教会に宿泊。

13日(土)フィリピン人女性たちと礼拝し説教。

14日(日)巖原聖ヨハネ教会で礼拝説教。午後、福岡へ移動し、フィリピン協働委員会に出席。

15日(月)福岡タワーなど見学、買い物をし、福岡市内で聖職たちと夕食会。

16日(火)朝、9時25分発の飛行機でフィリピンへ帰る。

* 特記事項

ネッド司祭は、日本で3回の日曜日を過ごすよう、20日間の日程を組んでいたが、どうしたことが、旅行会社の手配ミスと思うが、15日間のビザしか取得できておらず、10月12日には、出国しなければならないことが、成田到着時にわかった。東京、神戸などの入国管理局にも問い合わせたが、結局、申請書類を作成しやすい福岡で、10月5日、滞在延長を申請し、11日認められて、当初の予定通り、10月16日まで滞在して、交わりをすることができた。

目次

ネッド司祭、20日間滞在	1
ネッド司祭の主日説教	2
ネッド司祭の幼稚園でのお話	3
ネッド司祭と旅して	4
フィリピン中央教区への訪問団 報告	6
来年のキャンプに向けて	10

ネッド司祭の主日礼拝説教

「私たちの信仰を増してください」

ルカ17章5～10節

イエス・キリストは、からし種を使って、わたしたちの信仰を説明しました。からし種は本当に小さな種ですが、これが植えられるなら、それは12フィート(4メートルくらい)くらいの高さのからし種の木に成長します。ですから、わたしたちが、その成長の前と後を見たなら、その小さな種が大きなからし種の木に成長したとは、想像できません。どのようにして、それは起こったのでしょうか？

さて、私の親愛なる友人のみなさん。それ(からし種)は、イエス様が、私たちの信仰、そして私たちの信仰から生まれるもののお話を語っていました。私たちの信仰は、小さく、単純なものです。しかし、その信仰が私たちに、良い収穫を与えたとき、私たちにそれがどのように何が起こったのか、説明することはできません。ただ、私たちに言えることは、私たちが信仰の民であり、これは、神様が現在働いておられ、神様は仕事であることを私たちが信じるから起きるのです。

小さな信仰が、とても大きな収穫をもたらした例をふたつ紹介します。最初の例は、キリスト教です。キリスト教はいつ、誰が始めたのでしょうか？ 始めたのは、ただ普通の男でした。大工の息子でした。律法学者やファリサイ派たちは、彼のことを「彼は大工の息子ではないか？」と呼びました。彼らは、この普通の男、キリスト教の創始者に何の注意も払いませんでした。それに加えて、その大工の息子は、彼の12使徒を召しましたが、そのほとんどは漁師たちでした。彼らは普通の人々です。彼らはどこの神学校も卒業していませんでした。ですから、12使徒としてのイエス・キリストのグループは、

ファリサイ派や律法学者たちによって、軽視され、見下されていました。

しかし、彼らの仕事の成果を見るなら、今日私たちは何が言えるでしょうか？ もし、私たちが世界のクリスチャンたちの数を数えるなら、私たちは何十億にもなります。彼らの働きの前と後を比べるなら、私たちは本当に感銘を受けます。私たちに、そこで何が起こったのか、想像することができません。しかし、私が言ってきまされたように、私たち信仰の民には、神様が働いておられる、と言えるということです。

もう一つの例は、教会の歴史です。キリスト教が新しくローマに紹介された時、ローマ人たちはクリスチャンになりましたが、彼らは名ばかりのクリスチャンでした。

その頃、テレマクスという名の隠遁者(修道士)がいました。彼はローマの郊外に住んでいました。ある日、彼はローマ市に行きました。彼が街に近づいた時、彼はコロッセオという大競技場を見ました。そして、彼は大勢の人のたいへん大きな叫び声を聞きました。テレマクスはそれに大変興味をわきました。中では何が起きているのでしょうか？ そこで彼は競技場の中に入って行きました。彼は何を見たのでしょうか？ 競技場は人々でいっぱい、その中央には二人の強く若い男たちが互いに戦っていました。一番悪いことは、人々が「あいつを殺せ！ あいつを殺せ！」と人々が叫んでいることでした。

テレマクスは、独り言を言いました。「この人々はクリスチャンじゃないか！ それなのに何故彼らは殺すことを楽しんでいるんだ？」テレマクスは起きていることが嫌でしたので、競技場の中央に飛び込んで、戦うのを止めさせました。それを見ていた人々は、彼のことで怒り出し、彼らは守衛たちに彼を競技場の外に投げ出すように命じました。戦いは続きます。

しかし、テレマクスの良心は、戦うことも殺すことも、見過ごすことができませんでした。彼はまたそこに入って、戦うことを止めました。するとまた、人々は彼のことでもっと怒りだしました。悪いことに、彼らは守衛に、テレマクスを殺すように命じたのです。そこで守衛は剣を取り、彼を殺してしまいました。すぐに、彼は地面に倒れました。

観衆がテレマクスの死んだのを見ると、彼らは完全に沈黙してしまいました。どうしてそうなったのか、あなたにはわかりますか？観衆はテレマクスが聖人であることを知りました。そして彼らは、自分たちがその聖人を殺すことに関わってしまったことを悟ったのでした。

しかし、その結果、剣闘士の戦いは、それが最後になりました。もう二度とローマでは剣闘士の戦いは行われなくなりました。

私たちは、その出来事の前後を見ることができます。以前は、テレマクスは単なる普通の男でした。しかし、その結果はどうでしょう？彼の死によって、彼は剣闘士の戦いをやめさせ、ローマ帝国に良い知らせをもたらしたのです。

私の親愛なる友人の皆さん、私たちはクリスチャンです。そして、私たちはごく普通の聖公会員である、ということ私達は知っています。あなたも私もその信仰を持っています。そして、その信仰のゆえに、あなたがた、兄弟姉妹は、イエス・キリストの力を内に秘めた道具なのです。確かに、あなたの功績は、12使徒の功績のようではないかもしれませんが。あなたの影響力は、テレマクスの効果や衝撃ほど偉大ではないかもしれませんが。しかし、私たちが神様の目的のために信仰を用い、永久にキリストに服従するように、あなたがその信仰を神様に引き渡すならば、それは非常に重要で、意義深いものです。神様の目からは、神様に立ち返り、神様に良い業を行うすべての人は、大変重要な人なのです。



(戸畑で説教中のネッド司祭・左、と通訳の石川兄)

ネッド司祭の幼稚園での話(久留米)

「わたしたちはみんなともだち」

ある気持ちのいい朝、小さなかわいい犬が目覚まし、背伸びをしました。その小さな犬は、「川へ行って、顔を洗おう」と言いました。そして、丘を降りて、川へ歩いて行きました。小さな犬は自分の顔を洗うと、魚に会いました。

そして彼は魚に言いました。

「おいでよ、遊びに行こう」

魚は答えました。

わたしは歩けないわ。泳ぐことしかできない」

犬は言いました。

「魚さん、気にしないで。僕は歩いて君は泳げばいい。」

彼らは一緒に遊びながら、川を下ってゆきました。すると彼らは小さな美しい鳥に会いました。

魚は鳥に言いました。

「小さな鳥君、一緒に遊びに行きましょうよ」

鳥は答えました。

「ごめんね、小さな魚さん。ぼくは泳げないんだ」

子犬が言いました。

「心配なくていいよ。ぼくは歩くし、小さな魚さんは泳ぐ。君は自分のやりかたでいい。遊びに行こうよ」

彼らはいへん楽しそうに、遊んでいました。小さな鳥は、野いちごを集めて、それを友だちにわけてあげました。そうしていると、彼らは急に、美しい小さな蛇に出会いました。

小さな鳥は蛇に言いました。

「やあ、ちいさな蛇さん。一緒に遊びに行こうよ。」

蛇は答えました。

「ごめんなさい、小鳥君。私は飛べないわ。」

すると子犬が言いました。

「大丈夫だよ、小さな蛇さん。きみも僕たちの仲間になって。僕は歩くし、ちいさな魚さんは泳ぐ。小鳥さんは飛ぶし、君は這えばいいんだ。」

彼らはいへん楽しそうに、歩いたり、ジャンプしたり、泳いだり、飛んだり、歌ったりして遊んでいました。す

ると突然、稲妻が走って、ひどい雨になりました。そこで、彼らはお別れの言葉をいいました。「おうちに帰ろうよ。ぼくたちは、また次のときに会おうね。」

小さな友だちのみなさん。この部屋にいるみなさんは、みんなよく似ていますね。みんな日本人だからです。でも、みなさんが外国へ行くと、黒い人や、白い肌の人、茶色い人、髪の毛が縮れた人、まっすぐな人、髪の毛のない人にも会うことになるでしょう。

みなさんは、目の見えない人、足の不自由な人、片手だけの人、つまり障害を持った人にも出会うかもしれません。そんな人たちに、あなたは、どんな風に話しますか？あなたは、そんな人に何をしますか？あなたたち普通の人の同じようにして話したりしますか？そんな人たちと一緒に遊んだりしますか？

さあ、私の小さな友だち、子犬、小さな魚、小さな鳥、小さな蛇は、それぞれちがっていましたが、一緒に楽しく遊びました。神様の小さな子どもたちである私たちも、同じことができます。私たちが自分たちを大切に、愛し合うように、お互い、愛し合ひましょう。神様は、私たちを同じように、公平に見てくださっています。いつも良いことを行っているそんな小さな子どもたちを神様は愛しておられます。イエス・キリストは「小さな子どもたちを私のところに來させなさい。」と言われました。その意味は、あなたがたは、この社会の中で、大変大切な人だ、ということです。だから、みなさん、どうぞ、良いことをしてください。

USA for Africa という名前のグループが歌う、ウィーアーザワールドという題の歌があります。

あなたと私フィリピン人、日本人、アフリカ人、アメリカ人、ヨーロッパ人は、この世界のもっといい未来のために、私たちは仲良くならなければなりません。私たちの肌の色や格好が普通か、障害があるかにかかわらず、この美しい世界のために、そして神様の栄光のために、調和して一緒に生きてゆかなければなりません。

私の小さなお友だちのみなさん、お話を聞いてくださって、ありがとう。私が日本語を話せて、皆さんと一緒に遊べたらどんなにいいでしょう。しかし、神様は今日、私たちと一緒におられると信じます。神様は言われてい

ます。「心配いらない、気にしないでいいよ。あなたは、タガログ語か英語を話して、彼らは日本語を話します。一緒にみんな立って「THIS IS THE DAY」を歌いましょう。



(吉野ヶ里を案内する簀田姉、壹岐司祭とネッド司祭)

ネッド司祭と旅して

司祭 フランシス 小林史明

4回のフィリピンワークキャンプに、毎回顔を合わせ、特に最初の3回は、ずっと我々の世話をしてくれた、ネッド・マパンドル司祭が、今年日本に来る。毎年、フィリピンからはお客さんがあるが、特に世話になっている彼には、いろいろお礼がしたい、と思って彼の来日を楽しみに待っていた。

彼は2000年、栃木県那須塩原市にある、アジア農村指導者養成専門学校「アジア学院」に留学して、日本で生活したことがあった。また、彼は私が24年前、神学校の3年生の時、フィリピンのマウンテンプロビンスを訪問した時、サガダのセントメリーハイスクールの生徒だった、ということで、関わりが深い。

ところが、成田空港に着いた時、迎えに行った加藤さんから、意外な電話がかかってきた。ネッド司祭は、10月16日にフィリピンに帰る日程だが、彼の滞在ビザは、10月12日までしかない、というのだ。どうやら、旅行代理店のミスらしい。東京では時間がないので、彼の滞在延長の手続きは、福岡でやるしかない。福岡の入国管理局は、教区事務所の外池事務所長が連絡すると、対応がいいので、何とかかなりそう、とのこと。

私は10月3日、午前中に神戸へ行くことができた。前夜、東京から神戸に来たネッド司祭と共に、九州まで案内するためだ。前夜は、中村主教や神戸市内の牧師さんたちと一緒にお酒を飲みながら歓談したらしい。昼は、聖ミカエル教会牧師の芳賀司祭の案内で六甲山に登り、港を見ながら昼食。松蔭女子学院など案内してもらって、私の故郷福山まで新幹線で移動。

駅の裏にある福山城や、最近できた、大変大きな「結婚式教会」を見物。そのあと私の母教会である福山諸聖徒教会を訪問。定住牧師はおらず、保育園長の片山姉が教会を案内してくれた。管理牧師は広島にいる、私の弟だ。



(福山諸聖徒教会で、小林司祭・左、とネッド司祭)

教会を後にして、福山駅前の「博多一番」という居酒屋で、彼と焼き鳥など食べていたら、メニューに「馬刺し」があることを発見。昨年のロメル司祭、一昨年のダグソン執事は、熊本に来たので、本場の馬刺しを食べてもらえたが、今回は熊本が日程にないので、福山で食べてもらった。そのあと、駅から福塩線で2駅の私の両親の家に帰り、泊まってもらった。

彼が幼稚園で話す予定の、「ウィーアー・ザ・ワールド」の録音の時の、もう22年も前の映像を、彼と一緒に、

DVDで見たり、私が神戸教区の出身であることなど話して、日本では教区ごとに特色があることを説明していると、前の晩に起こった、彼にとっては不思議な体験を説明してくれた。

神戸で中村主教と数人の司祭たちが一緒に食事をしていて、彼が「この教区には、女性司祭は何人いますか？」と聞いたらしい。すると、司祭たちが大笑いになった、と言うのだ。彼にはその理由がわからなかったが、質問せず、他の話になってしまった、と言ってくれた。

「この教区では、女性司祭は認められていないんだ。」と説明。ネッド司祭の妻グロリアさんも司祭で、現在シンガポールへ留学中である。フィリピンと、あまりの違いに驚いたようだった。

翌日は、実家の近くに改装オープンした、「ホロコースト記念館」に案内したあと、広島に向かった。

広島では弟の小林尚明司祭が迎えてくれて、7年前に彼が広島に来た時、原爆体験を話した、山岡ミチコさんと再会したい希望が叶った。ネッド司祭は彼女の名前を知らず、ただ、ふたりで撮った写真が一枚あっただけだった。しかし、ピースボランティアの事務所に行って、その写真を見せると、彼女は有名な証言者で、今は老人ホームに入っているが、近くに住んでいるので会える、ということがわかったのだ。そして、訪ねて、1ページ目の写真ということになった。

広島では、小林尚明司祭一家と夕食をとり、翌日は金曜日だったので、朝早く広島を出て、博多駅で待っている外池事務所長と荻本兄の出迎えを受け、入国管理局で手続きをすることになった。(以上、おわり)



(ネッド司祭を交えフィリピン協働委員会メンバー)

フィリピン中央教区への訪問団

12名が4日間の訪問ツアー



(高山右近の像の前の訪問団)

フィリピンを訪ねて

福岡聖パウロ教会 板倉徳也

9月7日(金)台風が中部・関東方面に向かっているとき、福岡空港からフィリピン・マニラに向かう。五十嵐主教夫妻に引率された総勢十二名は、正午暑い熱気を感じるマニラ空港に降り立つ。ホテルで一休みの後に、ケソン市のフィリピン聖公会管区事務所、中央教区事務所、大聖堂、大学、施設、病院のある地区を訪ねる。夕べは三夜とも歓迎・交歓のパーティーが行われ、温かいおもてなしに感謝する。

8日(土)は、イントラムロス城塞都市跡を中心にマニラ市内観光にあてられた。まず、ユスト高山右近像を訪ねる希望が叶えられる。実は四年前、一人でこの銅像を探して訪れたが、遙かな日本を望む方向に凜と立っている姿を見て、マニラを訪れた時には、また是非ここにと思っていた。リサール公園のホセ・リサール記念碑を車窓から見ながら、イントラムロス内の聖オウガスチン

教会、サンチャゴ要塞跡に行く。リサール記念館では、フィリピン独立の英雄ホセ・リサールを偲ぶ。彼は日本を訪れたことがあり、日比谷公園内にもリサールの銅像があることを知る。また、要塞跡で戦争時の犠牲者記念碑に祈りを捧げ、フィリピンと日本との関わりに関心を深めた。

9日(日)は、なんとと言ってもこの日がフィリピン訪問のクライマックスとなった。訪問団は6人ずつ2グループに分かれ、それぞれ三教会を訪れ、多くの信徒さんと交わりの時をもつことができた。国柄、経済状況、生活習慣がどんなに違っていても共に主イエス・キリストを仰ぐことの喜びと恵みを感じた。この度のフィリピン中央教区訪問に参加して、主日のフィリピン中央教区への代禱が、さらに思いを深くしてできることと思う。タクロバオ主教夫妻、教区の方々、特に訪れた協会の方々の顔を思い出して、祈ることができるでしょう。(教区報11月号より転載)

五十嵐主教による

フィリピン中央教区への訪問団報告

報告者 五十嵐正司

訪問日程 2007年9月7日(金) - 10日(月)

参加者 12名

五十嵐主教、五十嵐純子[福岡聖パウロ]、板倉徳也[福岡聖パウロ]、中村勝子[熊本]、大館明子[熊本]、石東二郎[熊本]、古田杏奈[久留米]、簗田勝枝[福岡ベテル]、ベイカー博子[宮崎]、川添幸子[宮崎]、川崎千恵[鹿児島]、江崎芳子[戸畑]、

参加費 11万円(始めに11万5千円を受け取り、後に5000円を各自に返金した)



9月7日(金) 午前9時20分 福岡空港発

午前 11 時 50 分 マニラ空港着

シルベスター・ダグソン、シャロン・ダグソン夫妻が迎えにくる。

午後 3 時からフィリピン聖公会首座主教を表敬訪問、聖アンデレ神学校、アジア礼拝音楽学院、トリニティー大学、制服制作所、管区大聖堂、中央教区事務所訪問。

午後 6 時半 中央教区センターにて歓迎会。タクロバオ主教主教夫妻、ダグソン夫妻、ネッド司祭 等総勢 15 人と九州教区の 12 名での会食となる。

九州教区および参加者からパソコン購入代金として 7 万円献金、九州教区婦人会から 5 万円献金、匿名者から 3 万円献金、および日曜学校のために文房具類を献品。



9 月 8 日(土) 市内観光：キアポマーケット、高山右近記念碑見学、マニラ大聖堂の博物館、聖オーガスチン教会、サンチャゴ要塞(日本軍による犠牲者約 600 名の祈念碑の前で祈る)、礼拝用品のショップへ(買い物)
午後 6 時半 夕食会(タクロバオ主教主教夫妻を招待して)
Ihaw-Kalde-Kawa Restaurant



9 月 9 日(日) 2 グループに分けて教会訪問

A グループ：五十嵐主教、五十嵐、石束、

中村、簗田、古田

B グループ：板倉、大館、ベーカー、川添、川崎、江崎

A グループ 9 時の聖餐式は Holy Faith (Cainta) タクロバオ主教、ダグラス司祭、ダグソン執事と共に礼拝。B S A 支部発会式が行われ 10 人前後の人が宣誓式を行った。簗田姉の誕生日当日にあたり祭壇の前に導かれ祝福の祈りを受けた。



愛餐会の後に、入院中のラゲンザ司祭(元神学校教員)を訪ねて塗油式に参加する。

St. Margaret's church, (Payong, Antipolo, Rizal)を訪ねる。イスラム教徒が多いミンダナオ地域での聖公会信徒たちが命の危険ゆえに Antipolo 地域に国内難民となり、約 60 家族が集まっていた。難民となり貧困の中に生きる人々の存在を知った中央教区は主日礼拝などの牧会活動を始めた。集会所は借りた土地の上に、四隅に柱を立て、その上に屋根が掛けられている程度のもの。30 人程の子供たちと 10 人程の大人から歓迎を受けた。



(聖マーガレット教会の人々)

中央教区としては、教区活動の優先課題として、この人々に主日礼拝を行い、子供たちに教育の場を提供すること、としている。パンを提供することも必要なが、教育は何よりも自活できる機会を用意し、尊厳をもって生きる道備えとなる、とタクロバオ主教はビジョンを語った。

尚、地主の好意によって土地購入のチャンスが与えられているとのこと。

1平方 500 ペソ × 1000 平方 = 500,000 ペソ
(125万円ほど)

土地の時価は1平方 1200 ペソだが、教会を建てるならば500ペソで譲る、ある時払いでも良い、徐々に分割払いしてもらっても良い、自分も教会のメンバーになりたいとの申出があるとのこと。

Holy Spirit Church(inTaguig Rizal)を訪ねる。当該教会の努力と日本の教会の援助により、教会を建て、幼稚教育を開始し、現在は小学校6年生までをも教える学校となる。2部制で教育が行われているが、通園する園児は現在幼稚園50人、小学校100人となっている。中央教区では4番目の学校となる。

遅れて到着したにも拘わらず40人程の鼓笛隊と教会員に歓迎される。鼓笛隊の演奏の後に礼拝堂で壮年、婦人会それぞれの歌をもって歓待され、九州の6人は千の風、ガリラヤの風を歌って応えた。



B グループ 9時の聖餐式は St.Gregory Church (Cogeo)

ネッド司祭が牧師であり、2004年春に九州教区ワーク・キャンプの際に教会内外のペンキ塗りをした教会。礼拝前に聖歌6曲を練習してから聖餐式を始め、神学生が教話をした。40数名の出席者であった。礼拝中にベーカー博子氏の病氣回復を願ってhealing serviceが行われた。礼拝後、参加者からの記念品(3匹の魚が

描かれた暖簾タペストリー)を贈呈する。自己紹介、「ハレルヤ・ハレルヤ」を歌い、折り紙を教え交流の時をもった。手造りの昼食(ライス・ポーク、野菜の煮物・焼魚・ビーフン・デザート)をいただく。



(コギオの聖グレゴリー教会での礼拝)

Fairview Resurrection Episcopal Churchを訪ねる。この教会に行く途中、大館氏の祖父が戦死されたと言われるボソボソ谷を訪ね、下車して緑のジャングルの地を撮影する。九州教区が援助する神学生 Benny(前青年会会長)がいる教会で、2000人程のコミュニティの中にある教会であり、信徒数は約200人とのこと。10人程の子供、10人程の青年、20人程の大人から歓迎を受ける。小さなキーボードが礼拝堂にあり子供たち、青年たちの歌は素晴らしかった。特に50-60人程の若者たちの日常活動の中心を教会が担っているとのこと。

戸棚にはワークキャンプの時に持参した文具品が保管されていた。



(フェアビューの復活教会で)

St. Luke's Church (in Novaliches , Quezon city)を訪ねる。

途中、大渋滞のため大幅に遅れて到着、多くの人々が待ちくたびれて帰宅した後であった。ジュリエット司祭(タクロバオ主教夫人)たちが出迎えてくださり、婦人たち手作りのクッキーをいただきながら交流の時をもった。同司祭が司牧の責任者であり、レンデル神学生(神学校2年生 30歳)とフェイ夫人が日曜学校を見ている。

90歳の王氏(中国系の女性信徒)が川添氏を待っていてくださり、親しい交わりの時をもてた。



午後6時半、宿泊ホテル(Great Eastern Hotel)隣接のMaxにて最後の晩餐を行い、交流を深めた。九州からの12人は出席したフィリピンの人々30人程(若者たち、訪問した各地の教会の人たち)と協働関係の交わりを楽しみ、また別れを惜しんだ。



尚、タクロバオ主教がこれまでの協働関係による九州の関わりに感謝を述べられたことに対して、九州教区からは、板倉、江崎両氏が今回訪問を歓迎して下さり、十分に用意して下さったことに感謝の意を表した。

尚、フィリピン中央教区との協働の祈りを英訳して紹介した。英訳に際してはベーカーご夫妻の助言をいただいた。

Prayer for the companion relationship with EDCP

Merciful God, You have revealed us your power, your reign and your righteousness through the Creation of heaven and earth and your Love through Jesus Christ. We, who are gathered together before you, praise you with one voice. Guide us to share your Grace to those who do not know you. Especially, bless and use this companion relationship, the instrument of Christ, to glorify your name, through Jesus Christ our Lord. Amen.

9月10日(土)午前9時半 タクロバオ主教夫妻、シャロン・ダグソンが見送りに来る。

帰りのバス中で、参加費使用の内訳を説明。参加費の中からパソコン購入代金7万円の内36,000円を訪問団として献金することを決め、また中央教区にガソリン代等として1万ペソを献金した。



午後6時50分 福岡空港着

空港には壹岐司祭、外池事務所長、その他の方々が迎えてくださった。感謝の祈りをした後に解散する。九州教区が歌った歌:千の風、ガリラヤの風、慈しみ深きともなるイエスは、

世話役としての江崎芳子氏(フィリピン協働委員)また会計係として板倉徳也氏には大変にお世話になり感謝です。

以上

2007年9月12日

来年のキャンプに向けて

2008年のワークキャンプは、フィリピン中央教区主教のデキシー・タクロバオ主教から、「パラワン島で行おう。」という提案がされています。日程は、2008年3月4日(火)～14日(金)ということがほぼ決まっています。12月はじめには、各教会に募集要項が届くと思います。

パラワン島は、マニラから南西に400キロほどのところにある島で、そこから島の反対側までは、さらに650キロもある、フィリピンの西端の細長い島です。おそらくキャンプ地は、この島のほぼ中央に位置する州都プエルト・プリンセサのさらに50キロくらい南西に進んだところになるうと思われます。マニラから、700キロは離れているのではないのでしょうか。

ここまで、飛行機で行くと1時間15分で、毎日飛行機が飛んでいます。船は、週2回くらい、所要時間は、22時間のようです。

参加費を高くしたくないので、福岡からマニラまでの航空券を安いものにしようとする、今までの台北乗換えの中華航空より、もっと安い航空券がキャセイパシフィック航空から出ていました。それは、10時半くらいに福岡を出て、台北を経由して香港に3時頃到着。そこで乗り換えて、4時半にホンコンを出て、6時半くらいにマニラに着くというもの。若い人は、飛行場を途中2箇所も体験できておもしろいかもしれません。

11月29日開催予定のフィリピン協働委員会で具体的なことを決めて行くつもりです。

おそらく、1月中に参加者を確定し、2月10日(日)～11日(月・建国記念の日)参加者の顔合わせをして、準備の話し合いをすることになるでしょう。

最後に、今年の3月に行ったワークキャンプのスナップ写真を紹介します。今年は中学生や高校生も参加して、どうなることか心配していましたが、英語を習い始めた彼らには、臆することなく英語で話しかける実践も楽しいものだったようです。



(聖デービッド教会牧師館屋根のペンキ塗り)



(聖アンデレ教会牧師館のペンキ塗り)



(夕食会のため、ヤギが殺された。)